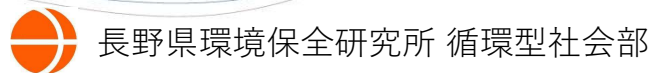


# 処分場の周辺地下水から検出される重金属の由来を調べます

## ～最終処分場周辺地下水における自然由来等重金属検出要因の検討～



廃棄物最終処分場（以下「処分場」という。）の浸出水、放流水及び周辺地下水等の水質検査を行い、周辺環境への影響を調べています。このうち、地下水から検出されるヒ素や鉛などの重金属の由来について科学的に調査して、廃棄物行政の監視・指導のための基礎資料とします。

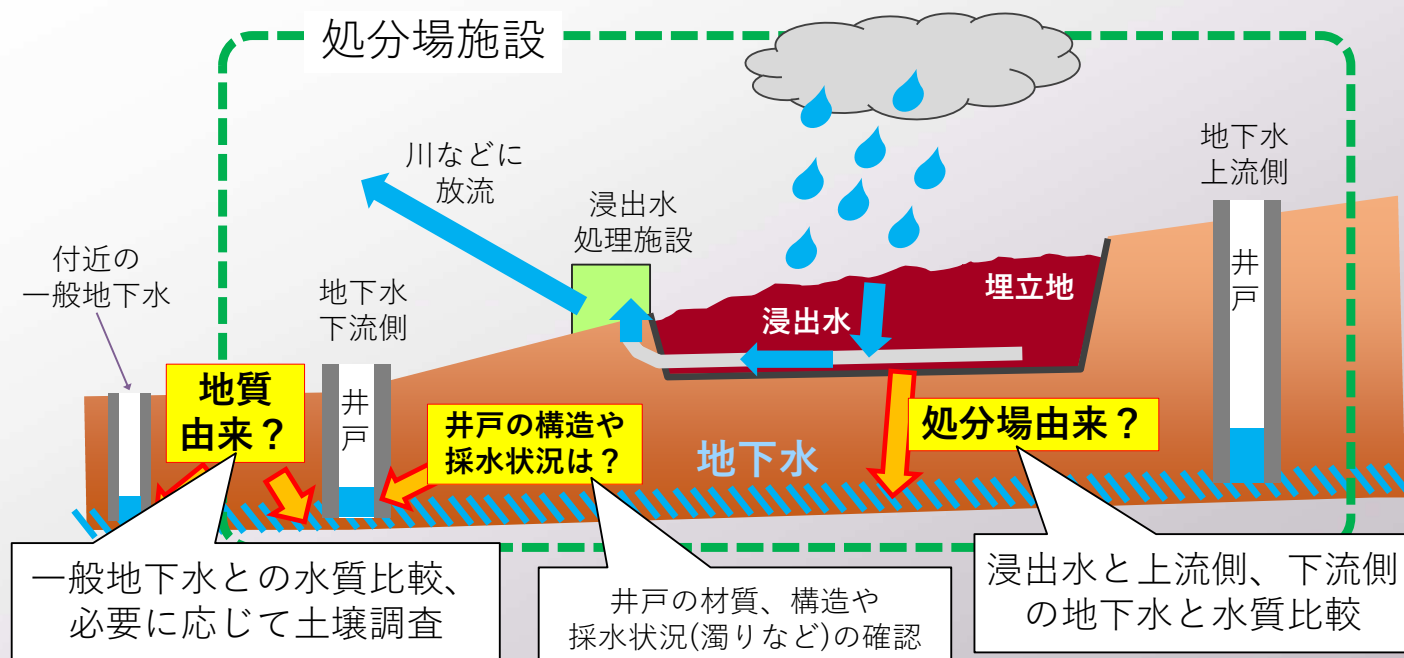
### なぜ研究しているの？

**<背景>** 焼却灰などの廃棄物を埋め立てる施設を処分場といい、長野県には約60カ所で稼働しています。処分場の周りに2本以上の観測井戸を設置し、この水質を検査して周辺に汚染が広がっていないことを確認することが処分場設置者に求められています。当所では処分場における維持管理基準の遵守状況を確認するため、毎年、処分場からしみ出す浸出水や放流水の他、観測井戸から周辺地下水を採取し調査しています。

**<目的>** 周辺地下水から重金属などが検出される場合、処分場由来なのか自然由来なのか、こういった条件で出てきたのかなど、検出に関わる様々な要因やその傾向について調べます。



### どうやって調べるの？



データや文献などの情報から総合的に要因を考察

### これまでに分かったこと

地下水から鉛が検出された2施設の井戸では、井戸材に鉛含有量が高いタイプの塩ビ管が使用されており、塩ビ管の酸分解物の同位体比と地下水の鉛同位体比がほぼ一致しました。また、2施設の井戸は処分場の上流側に位置し、処分場からしみ出す浸出水から鉛が検出されなかったことから、地下水から検出された鉛は処分場由来ではなく、塩ビ管由来の可能性が高いと考えられました。

今年度も地下水や地質等データを情報収集し、鉛以外の重金属の由来についても検証していきます。